

発芽は昨年並み（平年より 10 日程早い）に早い状況です。このまま経過すれば、ナシ類の開花始めは、早いところで 4/18 前後と予想されます。ただし、土壌乾燥により開花の不揃いが心配されます。つきましては、各園地の状況を確認して薬剤散布や摘蕾・摘花等の管理は計画的に進めてください。併せて結実確保のため、南水等の人工受粉は適期に実施してください。

◆ 和梨の定期防除

年度別の南水開花始め状況（調査地点：田麦沖）

年度	平年	H29	H30	2019
開花日	4/25	4/26	4/18	4/18 頃



開花期の薬剤散布（南水等が 1～2 分咲いた頃）

散布時期：4/15～20 頃（目安となりますので各園の生育をよく確認してください）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
サムコルフロアブル 1 0	2 0 ml（前日、3 回）
オルフィンフロアブル	2 5 ml（前日、3 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、ケムシ類、ハマキムシ類

散布量：10 a 当り 350 リットル

- ◆ 散布日：4 月 日
- ◆ 散布量： リットル

～ 注意事項 ～ ＊必ずお読みください。

- ① 訪花昆虫保護のため使用薬剤を厳守する。
- ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する。
- ③ アブラムシ類対策：ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。

◆ 南水開花前講習会開催概要

開催日時	集合場所	開催園地
4 月 10 日（水）午前 11 時 30 分	日野事業所	小根澤庄一様園
4 月 10 日（水）午後 1 時 30 分	長印中野駐車場	高橋真一郎様園

※人工授粉・芽すぐり（花芽整理）のポイントは裏面（4 月の重点作業）をご覧ください。

◆ 西洋梨の定期防除は次頁をご覧ください。

◆ 西洋梨の定期防除



年度別ラフランスの開花始め状況（田麦沖）

	平年	H29	H30	2019
開 花	4/26	4/26	4/18	4/18 頃

開花期の薬剤散布（ラ・フランス等が 1～2 分咲いた頃）

◆ 散布日： 4 月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期	4/15～20 頃（目安となりますので各園の生育状況をよく確認してください）
散布薬剤	水 1 0 0 ℓ 当り 展着剤 1 0 ml サムコルフロアブル 1 0 2 0 ml （前日、3 回） トップジンM水和剤 1 0 0 g （前日、6 回）
対象病虫害	腐らん病、輪紋病、ケムシ類、ハマキムシ類
散布量	10 アール当り：300 リットル
注意事項	① 訪花昆虫保護のため使用薬剤を厳守する。 ② 収穫前や収穫中の作物への飛散に注意する。 ③ アブラムシ類対策：ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。 ④ 赤星病の発生園では、オンリーワンフロアブル 2,000 倍（前日、3 回）を加用する。 ⑤ 不明な点は営農センター担当までお問い合わせください。

◆ 4 月の重点作業

1. 南水の人工授粉・芽すぐり（花芽整理）のポイント
- ① 1 短果枝当たり 1～2 芽を残す。結果枝（側枝）の片側 15 cm 間隔で、横向きか斜め上向きの短果枝群を残し、上芽と下芽は基本的には切除する。
- ② 上向きの短果枝は日焼け果・収穫前落果の原因になるので切除する。
- ③ 横向き、斜め上向き花芽を中心に最終的に着果させたい方向の花芽を残す。多少果台が細く、花芽もやや貧弱でも構いません。
- ④ 南水は、開花から 3 日目までが授粉能力が高い品種であるため、開花を確認したらできるだけ早い段階で作業を進める。
2. 腐らん病対策（本年も多発傾向です。感染拡大にご注意ください。）
- 腐らん病治療として患部の削り取りを行い、トップジンMペースト等を塗布してください。
- 腐らん病予防のため、大きな切り口等には至急トップジンMペースト等を塗布してください。
3. 凍霜害対策
- 生育が早いため、降霜被害が心配されます。防霜資材の準備と定期的なかん水を実施し園地内湿度を上げる対策等を講じてください。（※詳しくは別特報をお読み下さい）

- ✧ 結実安定対策
- オーロラ等結実不安定な品種は必須作業です。人工受粉を徹底してください。
- ✧ 摘花(摘蕾)について
- ① すべて果そうごとの摘蕾・摘花として一輪摘花はしない。⇒摘花する果そうは・・・1 年枝(腋芽)の花、主幹部に直接着花したもの、遅咲きの貧弱な果そう、目通り以上で側枝の直下（真下）の果そう
- ② 目通り以下の花は、凍霜害が心配されるので多目に残すようにする。（極端に弱い果そうのみ実施する）